

富山県総合計画審議会 第3回総合部会

1 日時 平成29年12月20日(水) 13:30～15:30

2 場所 県民会館8階バンケットホール

3 出席委員(五十音順)

遠藤部会長、稲垣副部会長、高木活力部会長、金岡未来部会長、岩城安心部会長
石塚委員、岩田委員、尾谷委員、久和委員、永原委員
朝日専門委員、池田専門委員、森井青年委員長

4 議事

- (1) 総論について
- (2) 基本計画について
- (3) 長期構想について
- (4) その他
基本理念について

5 発言要旨

(1) 知事挨拶 石井知事

- ・ 本日、富山県総合計画審議会の第3回目の総合部会を開催しましたところ、稲垣副部会長さん、また、永原審議会会長さん、総合部会の会長を務めていただいている遠藤学長さんをはじめとして、皆さま大変お忙しい中をご出席いただき誠にありがとうございます。また、池田委員には遠路よりお越しいただきありがとうございます。
- ・ 昨年の12月に新しい中長期の計画策定について諮問させていただいて以来、それぞれの審議会や各部会において皆さまのご見識や専門的な立場から議論を積み重ねてまいりました。特にこの総合部会の下に設けた3つの地域委員会、そちらには各市町村長や各分野の代表の方々へ地域ごとのいろいろな特性・課題を議論いただきました。また、青年委員会を設けて、おおむね30歳代の若い皆さまのご意見を頂いた次第です。さらに、その間に県議会議員の皆さまとの意見交換や県内4カ所でのタウンミーティング、パブリックコメントといったことを積み重ねてきました。
- ・ 今日には計画全体の総論に当たるところ、また重点戦略、人づくり政策、地域別の特性と取組み、長期構想についての答申素案をお示しします。これまで議論を積み重ねてきたものの集大成に近い、そのたたき台ということですが、委員の皆さまには十分ご審議を頂きまして、せっかく作るのですから、今後5年、10年の県政の羅針盤となるようなものになりますよう、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。総合部会は今回が最後ということで、今日の議論を経て来春早々に全体の審議会を開いて取りまとめる運びになっているので、よろしくお願ひします。また新しい年がもうすぐ始まりますが、引き続きのご指導とご鞭撻をお願ひしてご挨拶といたします。

(2) 報告事項（青年委員会「政策プラン」）

【森井青年委員長】

- ・ よろしくお願ひします。本日は本当に産学官で名だたる皆さま方が出席する、権威ある部会にて発言する機会を頂戴し、まずもって御礼申し上げます。
- ・ 本委員会は1月から活動していました。主に若手の視点を大事にして、制約をかけずに自由な発想で、ただし実現可能性も考慮した上で、柔軟な発想で取り組むということで進めてきました。そういった中で委員の皆さんから出てきたのが、資料8にある政策プランです。

委員21名で33の政策プランを案として策定しましたが、本日はその中から、幾つか補足説明させていただきたいと存じます。1番から33番までありますが、おおむね若手の視点で人という部分に主に焦点が当たっていたような感じがしますが、私も公式・非公式な場で書かれていたことをいろいろ協議して、本当に実のある委員会だったと思いますし、こういった機会をいただいたことを誠にありがたく思っております。

- ・ まず、2番の青木委員の「高校生による多言語・多文化ボランティア事業」という部分です。この企画の趣旨、目的、背景、内容は記載のとおりですが、青木委員の思いとしては、日本以外にルーツを持つ方々に対して、これは決して外国人だけではなくて、親が外国人であって生まれも育ちも日本という方も含めて、教育の体制やさまざまな支援、それから地域に溶け込んでいけるような体制をつくっていくことによって、より広範な多様性を持った地域になっていく、昨今、北陸新幹線開業に伴うインバウンド等のこともあるので、そういった部分も含めて活躍の場もあるのではないかと、このように案が提案されました。
- ・ 続いて7番ですが、こちらは大坪委員の「居住地域等でのボランティア活動・地域活性化活動への積極的参加活動応援手当」です。皆さまは財界のトップでいらっしゃいますから既にやられている方も多いと存じますが、昨今は企業のCSR活動が声高に言われています。そのような中、社員が個別で地域や社会のためにボランティア活動を行うことを企業として評価し、そういった活動をして、より地域に根差した会社であり、社員であろうということが大切であるという意見が根底にあります。社員の地域貢献活動が積極的な企業のROEが相対的に高いというデータもございます。県としてはこういった部分も応援、バックアップし、企業評価として優遇制度を設けるなど、いろいろ多岐にわたった意見が出ていました。会社が努力するだけでなく、社員自身の行動もどんどん促進して、それに対するインセンティブを与えていこうというのがこのプランの趣旨です。
- ・ 続いて12番、上澤委員の「認知症を予防する生涯活躍のコミュニティづくり」です。こちらはそれぞれ健康や福祉、観光など、いろいろ総花的な部分があるのですが、私はこれらを複合的に組み合わせている点が新しいと感じました。高齢化社会に突入し、昨今は人生100年時代などといわれはじめている中で、健康や福祉そして観光ということで、ノルディックウォークや古民家の活用等はそれぞれではやられていますが、それらを一つのパッケージとしてやっていこうというところに新規性があると考えます。

- ・ 続いて 16 番、砂田委員の「民泊サービスの活性化による観光・国際交流促進」です。皆さまご存じのとおり今年 6 月に民泊法が制定され、一定程度の枠組みができたという中で、これからどんどん需要も調査し、民業の圧迫といった懸念も一部もあります。民業と連携して安全性を高めた上で、県としても信用という面でのバックアップということで、もちろんこれは主に基礎自治体やるべきことと考えておりますが、県のある種のお墨付きといいますか、そういった部分を担保することによってより活性化が見込まれるのではないかとというのが当該委員の意見でした。
- ・ 続いて 17 番の、高見委員による「地域の安全・安心を支える建設業における若者・女性の雇用促進及び確保」です。既に県としても若者を中心とした人材の確保育成、建設現場のイメージアップといった部分での政策・補助金等積極的に打って出ているので、もちろんそれはこれからも継続していくことが重要ですが、高見委員の意識としては、やはり就社、人手不足業界といわれる中、なかなかこういった部分が難しいというところで、どうしても働き方が長時間労働になりがちといった部分もあり、構造的な改革をしなければいけないのではないかと。また、この中に記載はないのですが、後継者の不足率のデータがございまして、産業全体では 54%のところ、建設業は 60%ということで、後継者に一番悩んでいる業界でもあります。製造業のみが 50%を切っているということで、これは技術の伝承性とかいろいろなことで富山は製造業が強いという部分もあるからかもしれませんが、いずれにしても建設業は後継者不足に悩んでいて、かつ、現場での課題もあるという中で、こういった構造的な改革が必要ではないかという意見が出されておりました。
- ・ 最後に 22 番の深井委員の「がん検診受診率向上キャンペーン」について、こちらも既に県がやっていることなので、重複する部分があるかもしれませんが、こういったことをしながら、この中に記載はないのですが私見として、将来的にはある種の条例化といいますか、例えば節目検診等においてこういったものをある程度義務化したらいのではないかと。やはり最終的には予防という観点から医療費削減に繋がると考えております。そこは企業が持つ部分とか、いろいろなところの費用負担等の課題はあるかと存じますが、がん検診については受診率を上げてほしいというお願いばかりではなくて、例えば 5 年ごとの節目でもいいかもしれませんけれども、そういった時期の中である程度の強制力を持った形でしっかりやっていく。富山県は健康度も高いという実績のある県ですから、こういったことを先進的にやっていくのが大事ではないかと考えております。
- ・ 以上を含めて 33 の案があったわけですが、石井知事を先頭に地域それぞれの分野で職務にあたっている優秀な県当局の皆さま方が既に取り組んでいること、類似の政策、検討している事項等、青年委員会へのご指摘も含めて沢山ご指導いただきました。そのような中で、自由な発想で、冒頭に申しましたように制約をかけず、かつ、実現可能性も考慮して取り組ませていただきましたことを以て、1 年間の活動報告とさせていただきます。本日はこのような貴重な機会を頂きまして、誠にありがとうございました。

【遠藤部会長】

- ・ ご苦労さまでした。今できる、今やりたい、やらねばならないという視点で話がございました。
- ・ 森井さんは政策プランをまとめられるに当たって、皆さんの意見を聞かれていて、全体を見通して若者が今、何を悩み、何を目指しているのかということについて、一言頂ければと思います。

【森井青年委員長】

- ・ 皆さまがそれぞれの業種・業界、それから立場も、代表であったり、社員であったり、それぞれが持っている価値観や考えが違う中で、「自分だったら」という視点で考えて発案していただいたのですが、皆さんでグループディスカッション等をするうちに、一人一人がどんどん広い考えを持てるようになってきたという部分においては、この青年委員会を通してそれぞれが、もちろん成長の度合いはありますけれども、皆さんが大きな考えを持てるようになったという点では非常に有意義であったと考えております。

【遠藤部会長】

- ・ 異業種の方々がいろいろ集まれた良い機会だったと思いますから、ぜひ今回の機会を次につなげていっていただければと思います。森井さんにはオブザーバーとして引き続きご参加いただきたいということで、お願いいたします。

(3) 資料説明

<事務局より資料1～5を説明>省略

(4) 意見交換

【遠藤部会長】

- ・ 総論、重点戦略、人づくり、地域別の特性と取組みの答申素案についてご説明いただきました。委員の皆さまから忌憚のないご意見を頂きたいと思います。
最初は活力・未来・安心の各部会長からまとめてコメントいただいて、その後に各委員に聞いていきたいと思いますので、よろしくお願いします。最初に高木部会長からお願いします。

【高木活力部会長】

- ・ 私どもの活力部会についてはほぼ記載のとおりです。人づくりについて少しだけ言わせていただきたいと思います。この総論のところで「一人ひとりが可能性を開花させ、輝いて生きる人づくり」ということになっているのですが、一方で「優れた知性、豊かな心、たくましい体を持った子どもの育成」というところに少し痛みを感じます。優れた知性があるわけでもない、豊かな心でもない、たくましい体でもないという人が実は県民の大半でないかと思います。

そういう中で、やはり人の痛みに共感する心とか、そういうことも大切なのではないかと思います。企業でも最近は躁鬱病などが多く、この方々に「頑張れ」とか、「くじけるな」と言うのはかえって悪いと聞きます。そういう中で、やはり東京等と違って、地方ではみんなが生きていくためにお互いが支え合い、思いやり、そして能力や体力の弱さをお互いに支え合っていくという記述が、どこかにあったらいいなと思いました。

【金岡未来部会長】

- ・ 未来部会の中身というより、一つだけコメントを申し上げたいと思います。未来部会の委員のご意見として、中身は良いのだけれども、デザイン性が足りないというお話がございました。今、インターネットで世の中には大変多くの情報があふれているわけですが、逆に多過ぎて、一般の方はその中から有用な情報を見いだせないわけです。結果として SNS や 口コミ、疑似科学のようなものがはやってしまうという、非常に不思議な現象だと思います。
- ・ そういう意味で言いますと、オープンで分かりやすい県政をトップに掲げていただいているのは大変素晴らしいことなのですが、分かりやすさというのはそれだけ難しく、何でもかんでも詳しくすれば分かりやすくなるかということ、決してそうではないと思います。それで、未来部会のある方からご意見があったデザイン性が足りないということと言いますと、例えば資料 3 の参考ということで重点戦略の構成をご説明いただきましたが、この右に「イメージ図」と書いてあります。ただ、大変力作で申し訳ないのですが、これはとても図とは呼べないのではないかと。ほとんど文字になっています。この計画は誰に向けて作っているものなのか。恐らく横に置いて、辞書のように、いろいろな計画を進める際に、ここを参考にしようと。そういう意味で総合計画を作っているのはいいのですが、より広く県民の方に「これが重点施策ですよ」という形で数ページのものでお示しするには、これはとてもイメージ図とは呼べないのではないのでしょうか。もっと大胆に、分かりやすくする。

分かりやすくない理由の一つは、私もこういう計画作りをよくやっていたから分かるのですが、特に皆さん優秀な事務局の方が多いので、なるべく網羅的な、網羅性の高い用語を使おうとするわけです。そうしますと、その一つ一つの、例えば「生産性の向上」や「付加価値の創出」と言っても、具体的に何を指すのか分からない、非常に網羅的な用語をその表題に付けていらっしゃるのですね。ただ、その表題だけだと、具体的に何をしたいのかが分からなくなるということで、今さら大変無い物ねだりなのですが、より県民お一人お一人に示される際には、もっと大胆な分かりやすいものをこの計画とは別に作っていただくと。その際にはこれとは多少離れたようなデフォルメも必要になるのではないかという気がします。

【岩城安心部会長】

- ・ 第 3 回安心部会は 10 月 19 日に行ったのですが、皆さまの意見が非常に活発に出ておりました。それで、最後にやはり出たのは人づくりが大事だということで、人材をどのように育てていくかということの問題としていいのではないかと思います。

す。

- ・ その中でエンパワーメントというご発言もございましたが、そうは言っても一人一人が力をつけるためにはどのような方法が一番良いのか、やはりそのためには行政を含めて、その人一人一人に力をつけるような後押しが今後は必要となってくるのではないかということでした。私も確かに人材を育てるというのは、今後、この未来とやまについては非常に重要な課題だと思って聞いていました。今後も各分野の専門の方にも来ていただいて、いろいろな考え方をまとめてやっていただきたいと思います。

【遠藤部会長】

- ・ 高木部会長や金岡部会長、岩城部会長からご発言をいただきました。コメントを拝聴していて、人としてのコミュニケーションをしっかりと、お互いが考えていることを分かり合い、伝え合って、そして弱いところをカバーし合いながら前へ進みたい。このようなプランを作るにしても、そのベースに人として関わっていくことの大切さを語られたと思います。

他にご意見はいかがでしょうか。

【久和委員】

- ・ 全体として網羅的にいろいろな政策が整理されており、それぞれについては当然というか、そういう方向でやっていただければいいなと思うようなことが非常に多いのですが、その中で今後10年を考えたときに一番大事なのは、人口減少をいかに小さく抑えるかということではないかと思います。特に若い人の社会増をいかにプラスに持っていくかということが一番大事ではないかと思っています。その中でも、前に申し上げたかもしれませんが、女性の社会増を何とかプラスにしていきたいと強く思っています。
- ・ また、これだけいろいろな政策を実施されるに当たって、予算、あるいは人員など、そういうものがどの程度必要になるのかというのはよく分からないところだと思います。多分、今の県の予算の範囲内、あるいは人員の範囲内でやっていくということになるだろうとは思いますが、そういうことが本当にうまくできるのかどうかというあたりが不安というか、気に掛かるところです。

【遠藤部会長】

- ・ 大事なことだと思うのですが、今の予算の点に関して、事務局の方から何かお答えはありますか。

【石井知事】

- ・ 今のところ計画の達成状況をチェックする指標を200ぐらい示すことにしているのですが、基本はある程度、これまでの5年、10年の各分野の実績、例えば保育所普及率が何%あるとか、こういうもののトレンドを引っ張っていて、おかげさまでこの12～13年で財政構造赤字をゼロにできたということがありますから、それで引っ張ってみて、それをベースにしながら、しかし、これからの5年、10年を考えると、これは

重点的にもっとやらなければいけないというものは目標を上方修正し、全国的に見てもかなりレベルが高くなっているから少しスピードを緩めてもいいというものはあまり無理をしなないと、このように整理しています。

今の目標を達成するのに、これは財政が破綻しそうだといったことはまずありません。ただ、毎年、税収や国・地方の財源配分も変わり、いろいろなことがありますから、やはりディテールについてはどうしても毎年予算編成するということになります。ただ、財政との関係で言うと、今言ったような形でとんでもなくありそうにもない数字は目標にしています。あとはものの考え方、各委員の皆さま、部会長の皆さまがおっしゃったようにいろいろなご意見を頂いて、だいぶ練られた表現になっていますから、それなりではないかと思えます。

- ・ あと、今までのご発言について少しお話しします。高木部会長がおっしゃったように、確かに体力の違いや能力の違いなど、いろいろなことがありますから、ご指摘はごもっともです。これからの時代は高齢化・人口減少が進み、特に地方ではその傾向が著しいわけですから、ある意味では自立しながらも支え合うというか、共生の理念というのはすごく大事なキーワードになってきていると思えます。人づくりのところの書きぶりは確かにその辺の印象が薄いので、工夫させていただきたいと思えます。
- ・ また、金岡部会長がおっしゃったことですが、多くの県民の皆さんにしっかり何がポイントかをアピールするには、これは文字数が多いのではないかというのは確かにそうだと思います。従来から、私が知事になってからも総合計画を2度作っていますが、その都度、県民の皆さま向けに30~40ページぐらいの一種の普及版というか、PR版を作っています。その際には、ややもするとこれを単に圧縮しただけになるのですが、これまでもイメージ図や図表で少し枝葉を切ってポイントを表示するようになってきましたけれども、今回のご指摘は誠にごもっともなお話ですので、枝葉は多少切っても、一番大事なポイントがしっかり伝わるように工夫したいと思えます。
- ・ それから、岩城部会長がおっしゃった人づくりが大切だというのは、まさにそのとおりです。一人一人の子ども、それから男性も女性も含めて若い世代の方、さらにご高齢の方にも、今の生産年齢人口の減少を考えると、もっと意欲と能力を持っている人に活躍していただかないといけない時代ですから、これについてはもう少し各論も含めてやっていきたいと思えます。今、国の制度でも新たに専門職大学をつくるという動きがありますが、これはやはり人生100年時代を目指した施政で、例えばカレント教育にもっと力を入れるとか、いろいろなことと絡んでいます。今のご指摘を踏まえて、もう少しこの中身も練りたいと思えます。
- ・ あと、遠藤部会長に取りまとめ的なお話を頂きましたが、やはり人と人がどうつながっていくか。高木部会長がおっしゃるように、みんながみんな能力に優れ、体力も素晴らしいという人ばかりではないのが現実ですから、そういう中で人と人とのつながり、コミュニケーション能力、思いやり、優しさが大切ですので、こうした視点を忘れずにやりたいと思えます。
- ・ さらに久和委員がおっしゃった、人口減少をいかに抑えていくかということが大切だというのは全くそのとおりです。幸い、富山県は一番ポイントの20~24歳の人口は、男性はここ2、3年は社会増になってきていて非常に心強く思っていますが、女性が

まだにかなり流出しており、これはまた経済界の皆さんをはじめ、各分野の皆さんと本当に連携して、やはり若い人、女性に選んでもらえる県にならなければいけません。前よりはだいぶようになってきたと思うのですが、それには実は各論で、例えば女性活躍推進法もできましたけれども、他にもいろいろな企業の事情もありますが、もちろん自治体もそうですけれども、そういう中でやはり女性の皆さんに「富山というフィールドであれば、意欲と希望を持って働き暮らせるな」と思って選んでもらえるような県にいかにしていくか、これはまさに産学官で頑張っていかなければいけないと思っています。よろしくお願いします。

【遠藤部会長】

- ・ ありがとうございます。それでは、他の委員のご意見もお聞きしたいと思います。

【永原審議会会長】

- ・ 総合計画を作った場合、県民は5年後、10年後により元気な県、より活発な県になるという希望を持ちます。そうならないという要素は何かというと、人口減少です。県民は、大学出たら幸せになれると、東京の大学に出てしまい、就職したら帰ってこないことです。人口減を止めることは難しいが、そのなかでいかに活力を維持していくかが問題だと思います。
- ・ もう一つ、県としては自然災害に対する備えが大事だと思います。富山県の場合はやはり地震とか川の氾濫となると、150年前にも安政の大地震で富山市は全滅したし、150年もたつと、もう記憶というか、生きている人に残っていませんよね。立山砂防など自然災害に対する備えが県としては大事なのではないかと思っています。
- ・ 最近 Society 5.0 というのが流行っているが、情報通信の分野では現在よりは、ものすごく進んだような状況にあると思います。そういうものは具体的なところは書かず、そのような言葉が出てきている事を念頭において、次の計画を作る際に対応すればよいと思います。

【朝日専門委員】

- ・ 今回私は、新総合計画の中身を一読させていただきましたが、非常に素晴らしい出来栄だと思いますし、この成果として出てくるのは、資料を頂いていますように、資料2の54ページにあります、2020年半ばに期待される富山県の姿というものであります。
- ・ この中で一番問題だなと思っているのは、ものづくり会社として発言させていただくならば、喫緊の問題であります人手不足、さらに少子高齢化が進むことによりますます労働力不足が懸念されております。この問題に対してどのような対策をとっていくかということは、3つあると思っています。
- ・ 1点目ですが、人手不足の解消も目的として、産業機械は、大変な勢いで人工知能、ロボット化が第4次産業革命の中で進んでおります。使われている機会は日本製ではなく、大部分がドイツ製です。医療検査機器・薬品製造機械もドイツ製です。私どもが使っている印刷機械も、人工知能搭載のものはドイツ製です。残念ながら日本製で

そこまでのものがまだありません。ただ、大きな問題は、価格が日本製よりも6割くらい高いということです。

明日リリースされますが、経産省の方から、地域未来投資促進税制が発表されます。特別償却 40%または、4%の減税をするというものでございまして、大変素晴らしい制度です。全国で2000社が選ばれています。今回の参考資料の1の2にあります、青年委員会提出の中からも、IoT、AI、ロボット等の導入推進、導入企業への助成というものがございます。また、資料3の2ページにもございます、県内中小企業のIoTを用いて自社工場内の生産性向上を図るための設備投資に対する支援がございます。この制度は、中小企業に限定されているような制度で中堅企業向けではありません。こういった制度を中小企業だけでなく、中堅企業への導入も検討いただければ、企業は将来の計画に対し、前向きな投資が可能になると思います。また、人手不足ですので、工場をロボット化することによって、女性の登用も増えてくるものと思います。

- ・ 2点目ですが、富山大学さんでは、平成30年の都市デザイン学部の開設をはじめとして、新しい学科を作られると聞いています。県立大学さんも知能ロボット工学科・医薬品工学科・看護学部を計画しておられますが、これにより女子学生が増えるものと思われまます。当然そうなれば、男子学生も増えるものと思われまますし、県内への就職者数も増えるものと期待されます。知事さんもおっしゃったとおり、特に大学進学で県外へ行かれた女性はなかなか富山に帰ってこられませんから、地元の大学に進学して、富山で就職していただきたいというのが産業界の切なる願いです。
- ・ 3点目ですが、留学生についてです。実は私どもも小さいながら公益財団法人を運営しております。毎年35人から40人をお世話しておりますが、現在は中国からが80%アセアン10カ国からは、20%くらいです。今後、アセアン諸国からの奨学生を増やしたいと思っております。富山大学では、中国からの交換留学生はいますが、アセアンとは実施されておりません。アセアンには、例えばベトナム工科大学やシンガポールにも工学系の優秀な大学があります。そういったところとの提携を各大学でぜひ今後行っていただきたいと思ひます。また、人手不足を解消するために、アセアン諸国等の豊富な人材を活用できればと思ひますが、法律により労働者として直接雇用はできないことになっておりまます。隣県のM産業さんは、ベトナムで数千人雇用されておりまます。残念ながら、その方々を日本国内で勤務していただくことは不可能です。ただし、現地の大学を卒業された方は、日本の企業に就職いただくことが可能と聞いておりまます。実際、M産業さんは、ベトナムの工科系大学を卒業された学生さんを直接雇用されておりまます。交換留学などの制度を拡充することにより、富山県の企業に就職してくださるアセアン諸国の方が増えることを期待しておりまます。

ぜひとも富山県さんにお力添えいただきたいと思ひています。

【池田専門委員】

- ・ 3点ほど。1点目は、活力部会の方からのご報告がありました、人づくりというところで、「自立しながらも互いに支え合う」という点についてです。これは教育現場の視点で考えまますと、新しい学習の「道徳」でも重視しておりまますところ、まさに、知事のおっしゃられた自立と共生につながる重要な点だと感じておりまます。これからの道

徳は、「考える道徳」という名称が付いていまして、命の大切さといった側面だけでなく、自分自身の心の調整、制御、そして、他者の心を理解する力を育む、ということに重点がおかれています。これは「市民力」にも通じるところで、われわれ大人もこうした「モラルシンキング」を今一度見直しておくこと、そうした点を強化していくことが「人づくり」の根幹として重要だと感じております。また、道徳教育はジェンダーなどの問題に関する認識や教育にも通じるもので（私は女子大に勤めておりますが）、今後、地域やコミュニティといったレベルでもどのように取り組んでいくのか、大切な観点になってくるだろうと思います。

- ・ 2点目は、未来部会の方からお話で「ポンチ絵」にある計画の流れですが（私はこのような図を頂き自身の頭の整理になって有難いと思っております）、このなかで共通するのは、「富山マインド」と言いますか、富山に生まれ、育ち、羽ばたいて、そしてまたその力が富山に戻ってくるような、そうした心を育むことだと思います。県民のみなさまにお示しされる際には、そうした何かフレーズがあると、その意図がより伝わるように感じました。大学もそうですが、最近では「愛校心」といった気持ちが育まれにくくなっているように思います。富山マインドといった意図や理念が伝わるようなキーワードのようなものがあると良いかもしれません。
- ・ 3点目は、専門職大学院に関するお話がございましたが、雇用の観点からも、これからは人と人をつなぐ仕事をもっと増えていっても良いと思っております。専門職という点では、たとえば、現在、全国に「遺伝カウンセラー」という職が浸透しつつあります。これは、出産に関することや子どもの病気のことなどで、お医者様とは別に、遺伝や医療、支援に関するさまざまな情報を、相談者に的確にわかりやすく提供する仕事で、高度の専門知識を要します。そうした資格が取れるところ（たとえば大学院専門養成コースなど）を設置する方向と、それとは別に、市民同士のピアサポーターという仲間同士で支え合う制度の充実や、そうした地域やコミュニティのなかで人と人をつなぐ市民カウンセラーとでもいいでしょうか、新しい職ができると良いのではないかと感じました。

【遠藤部会長】

- ・ ありがとうございます。それでは、先に長期構想と新総合計画の基本理念をご説明いただいて、その後、またご意見を聞きたいと思っております。

(5) 資料説明

<事務局より資料6～7を説明>省略

(6) 意見交換

【遠藤部会長】

- ・ ありがとうございます。最終的には、基本理念を含むメッセージをどう伝えるかということになると思います。難しい点もありますが、ご意見を頂きたいと思っております。

【尾谷委員】

- これまで作られたものについては、非常にいい内容ができていると思っています。先ほどから、話がでてるのは、各部局において、この計画を実施計画としてどうしていくかというプロセスが大切だろうと思いますし、かつ、それぞれの予算をどうしていくか。富山県において、社会情勢がいろいろ変わっていく中であって、例えば、2、3年でやらなければいけないもの、5年で計画しなくてはならないもの、それぞれあると思いますので、そういうものを県民の皆さんにお示ししながら対応していくことが大切かなと思います。
- 先ほど、見た目で見分りやすい方がいいということで金岡さんもおっしゃいましたけれども、これまでの県の中でいろいろな見開きの資料を作っておられますが、結構良いものが多いと思います。簡単にただ県民に分かってもらえるポンチ絵みたいな絵でいいと思う。そして、先ほどから出ている、この少子化の時代の中、特に女性の富山県への戻りが少ないことについて、各企業の皆さんはいろいろ努力しておられますが、やはり職場をきれいにしあげないと駄目だと思います。富山県の中において、ある企業の中において、工場や休憩所など女性が入るような所をきれいにしたら、女性が離職しないようになったということがあります。そういったことをやっていくことが大切ではないか。

そういうことは、学生の時代から、富山県には、こんないい会社、こんなきれいな会社があるよとか、例えば東京行って、大阪行ってから、富山に戻ってきてほしい場合も、例えばインセンティブとして、ふるさと納税じゃありませんけれども、それによく似た、例えば戻ってきたら奨学金少し面倒見るとか、寮やマンションとかに入るときに少し助成するとか、富山戻られて、富山の会社に入っていて、引き続き勤めてもらえるようなことになれば、こういうものを少し見せるのがいいのかなと思います。これは予算との関係ありますからご努力いただければと思います。

【岩田委員】

- 青年委員会の方からのご報告いただいて、とても現実的に生活面からも検討していただいたなと思って、私はうれしく思いました。ぜひ、これはこの計画に入れていただいて、これからも頑張っていたいただければと思います。
- 先ほど、高木部会長からの自立と共生というお話をいただき、やはり私もそれが何か富山の県民性ではないかと思うので、ぜひこれがもう少し表れるような富山県らしさが出てくればいいなと思います。たくさんの施策の中でも、知事からも財政については健全な財政で大丈夫という力強い言葉もいただいて、ほっとしております。今、行財政で大変なところもございますけど、県は知事がリーダーシップを発揮していただいてたくさんの施策を今実施していただくことに、県民として大変うれしく思います。
- あと、私たちの活動の中で常に環境問題を大きな柱にしていってまいりましたが、長期構想の中に、「水がたぐ豊かな海・里山構想」が入っていて、今、マイクロプラスチックの問題もありますし、富山湾のやはりおいしい魚をぜひこれからは私たちが頂いていきたいという思いがありますので、そこにもぜひ力を頂いて、私たちも県民も、

これは県民総参加の活動だと思うので、ぜひ、これは長期的な構想の中で関わって行っていただきたいと思います。

【石塚委員】

- ・ 評価という意味では、これよくできています。大変な苦勞だったと思います。ただ、当事者側からすると、先ほども朝日委員からありましたように、知能ロボット工学科、それから医薬品工学科、それから看護学部をつくることによって地域貢献、地域に根差した人材をつくるということ。それから、地域に役に立つ研究、教育をします。最終的には地域定着を図りたいと、それで地域貢献を図りたいと思っているのです。
- ・ ちょっとここにグローバルという言葉がかなり入っているのですが、地域貢献とグローバルがあたかも違うかのような、ちょっと錯覚、ずれなのですが、地域貢献するためには人材でも貢献になると、その技術が、人材が、日本でも世界でも通じないと地域貢献できないのです。だから、地域貢献するということは、イコールグローバルということなので、何もこれをそういうふうには書けないということではないのですが、例えば人づくりの所で2番目がグローバルに生き抜くと、3番目が地域を支えるというので、これは非常にいいのですが、実は先ほど高木部会長がものすごく良い指摘をされたのですが、グローバルというのは、留学生をいっぱい連れてくる、留学させるというのをグローバルと考えているのですが、地域貢献で、地に根を根差したグローバルな貢献をしたいというふうに考えております。

【遠藤部会長】

- ・ 石塚委員、ありがとうございました。私も全く同じことを思っていました。組織とか国同士のコミュニケーションはインターナショナルであり、グローバルなコミュニケーションは、結局、人と人とのつながりになると思います。地域貢献も一つ一つのつながりだということを考えると、まさに、これは一つのテーマなのだと思います。
- ・ なお、富山大学の学長としては、この計画の中にもう少し富山大学が働いていなければいけないのだろうと反省しております。若干、時間がございますので、皆さんの意見を頂きたいと思います。全体的に見ましていかがでしょう。

【高木活力部会長】

- ・ 先ほどちょっと、安らぎとか、そういうことを申し上げたのですが、働き方改革というのが、今、出ています。それで本当は違うのではないかと思いますけど、時間外労働の削減とか、そういうことばかりに光が当たっています。地方だと偏差値がそんなに高い人ばかりが集まってくるわけでもない、でも、そういう一人一人が、先ほど岩城部会長おっしゃいましたけど、エンパワーメントですよね。プロGRESS、要するに能力はそれほど高くないかもしれないけど、少しでも成長して、そして、みんなが輝いて、みんなが幸福感・満足感を持って。SMAPの歌（世界に一つだけの花）ですよね。比べたら駄目なのですよ。やはり地方は、それぞれが野に咲くレンゲソウでも何でも、頑張りながら地域協力していく。そうすると、東京の競争にちょっと疲れたな、でも、地方でふるさとの元気をもらって、また頑張ると。そういう県であれ

ば、この計画はもっと良くなるのではないかと、言わせていただきました。

【金岡未来部会長】

- ・ 先ほどは厳しい意見というか、この計画全体としては大変素晴らしいもので、横に置いて参照すべきものであると私自身も感じておりますが、あえて見せ方のお話をさせていただきました。
- ・ それで今、皆さまのご意見を聞いていて思ったのですが、ある会社の本社移転に絡んで、ネットには数千件も「富山県は暗いのではないか」ということが随分書かれました。これは富山県民の方だけではなくて、多分、全国から書き込みがあって、「富山県は良い県なのだけれども、何か暗いよね」ということで、私はネットの数千件の書き込みを読んだのですが、明らかに富山県民ではない方から「暗い」という意見が結構ありました。

そのような県民性がどこから培われたのかはよく分からないのですが、恐らく江戸、明治初期はそれほど裕福な地帯ではなかったもので、恐らく閉鎖性というのは貧しさの裏返しなのかなと思うのですが、これだけ豊かな地域になっているにもかかわらず、その閉鎖性とか、それが富山県民の良さを生んでいる面もあるかもしれませんけれども、やはり広く日本全体から見ると、富山県が暗く見られていると。そういう県民性だということに関して、この計画の中のトーンとして、そういうところがこれを進めていくと打破されるのかどうなのか、そういう心情的なものをどう反映させればいいのかは分からないのですが、あの数千件の書き込みを読んだ感じとして、本当に富山県は何か暗い、閉鎖的だという書き込みが結構ありました。それを打破するようなものはないのだろうか、今さら言っても遅いのですが、何かそういうトーンなり・・・。

というのは、地方創生の話が始まった2、3年前を思い出していただくと、多くの政府委員の方とか、いろいろな方のお話を聞いても、まず始まったのは人口減少、少子高齢化であると。このままいくと、日本、特に地方は大変だということで、今すぐに地方創生のタイミングで物事を考えていかなくてはいけないという脅しから始まったと思うのです。恐らく少子高齢化がここまで進んできて、皆さんこれが大変だということとはもう分かっているので、今度は明るいトーンでいくとするならば、大変難しい要求なのですけれども、その行間から生まれてくるようなものが何かあればいいなど。皆さんの意見を聞いていて、富山は暗いという意見が日本全体から相当あったということ踏まえたいといけないのではないかと感じた次第です。

【朝日専門委員】

- ・ 富山県は「海のあるスイス」という言い方を最近されておりますが、富山とスイスは非常に似通っております。スイスの製品は非常に品質が高く、Made in スイスの時計などはブランドとして価値を高く評価されております。富山県の製造メーカーさんも、Made in Toyama はスイスブランドのように高品質なブランドと言われるように各企業で努力していただきたいと思っております。

1つの事例として、昨今、日本の化粧品メーカーさんが、工場を日本へ回帰される動きがあります。500億円規模の工場を関東や関西に作っておられ、海外の生産拠点

から国内に戻ってこられると聞いております。こういった流れから、富山にも来ていただいて、Made in Toyama の基礎を作っていただければありがたいなと思っております。もぜひ造ってもらいたいと思っているのですが、メイド・イン・富山を目指していただければと思っています。

【久和委員】

- ・ 北経連として、これは富山県の計画ですから、富山県が将来どうなっていくのかというのは当然だと思うのですが、2023年の春には新幹線が敦賀まで開業すると、北陸3県を1時間以内で行ったり来たりできるようになるわけですね。さらに国際化がどんどん進むと、やはり県単位での意識がどんどん低くなるというか、下がってくると思います。

幸い、新幹線ができて、富山県も認識されていますが、北陸という単位での認識が非常に全国的にも高まってきたのではないかと思います。富山県としてこういうものを目指されるというのは、それはそれで素晴らしいことだと思うのですが、隣県と連携してできるようなことがあれば、ぜひ積極的に連携して効果をより高めるという方向で考えていただけるとありがたいと思っています。

【遠藤部会長】

- ・ 今、久和委員は北陸という視点で言われましたが、実はこのプランの中で富山県と地域という二元的な部分があるではないですか。そういうところをうまく集約していただきながら、より地域を生かしつつ、かつ、北陸、あるいはさらに広い日本という形に広げていかなければいけないのではないかと思います。

【稲垣副部会長】

- ・ 実は私は財政の問題がある自治体の総合審議会の会長をしております。大変困っております。今日のお話を聞いていて、本当にこの総合計画はしっかりまとまっているなという思いです。いつかのときに、要は県民の幸福の総和をどうしていくのかというのが一番の基本だという話をさせていただいたと思うのですが、そのために社会資本をどの分野に重点的に投資していくのか、あるいはそれを分散的に投資していく分野はどの分野なのかをびしっと決めていくということだと思うのです。そういう意味でのこの重点戦略の策定の整合性があるのではないかと思います。
- ・ そういう中で、2つの重点政策についてご説明がありました。まずは最初の人づくりの中身について、私の思うところをお話しさせていただきます。今までの人づくり・教育の世界というのは、戦後はどうも、あくまでも全て平等という世界で仕組み等がつくられていたような気がするのです。今のこの時代になると、社会の変化がすごく激しくて、その社会の変化というのはやはりイノベーションによってさまざまな社会的価値が拡大していく時代になってきているわけです。そうすると、そのイノベーションを引き起こすリーダーをどうやってつくっていくのかというのがすごく大切な時代になっていると思います。そういう意味では、入り口までは確かに平等でいいのですが、それからのプロセスを全て平等でやっていくのかどうか。本当に

そのイノベーションリーダーを育成していくのだというとき、これは単に知能だけの問題ではなくて、やはり全人格的なところも含めて育てていかなければいけません。それが富山でどうやってできていくのだろうかということだと思います。現在のままだと、あまりにも平等主義がはびこってしまっていて、その辺が非常に難しいのではないかと。周りとの競争環境も変わってきています。端的な言葉で言うと、10年後に石井知事のような人をどうやって輩出するのかということになるのかなという感じがしていますが、そういうことも考えていただきたいと思います。

- ・ もう一つは、そうは言いながらも多くの方々は、ある意味ではイノベーションリーダーが作り上げたパイについて、それなりに分配を受ける立場になります。これが最終的には教育や人づくりについては社会的評価、あるいは経済的な対価になっていくと思うのですが、現在の社会的な評価や対価であるものに対しては、どちらかというと、実は人づくりのところで女性の活躍なども書いてあるのですが、「管理職」という言葉がすごく表に立っているような気がするのです。ですが、あくまでもそれはマネジメント能力を非常に高く評価していて、個人が発する技能やスキルといった部分に対しての評価がまだまだバランスとして悪いのではないかと考えています。

そういう意味では、実は私どもの会社でも今、複線型人事制度というものを進めています。例えばエキスパート、マイスターといったものをもっと高く評価したりするような制度を進めています。社会全体が経済的な対価とか、そういうことは別として、社会的な評価も含めてそういう複線型の価値観を持てるような社会にしていくことによって、もっと全員が生き生きと仕事をできる社会が生まれるのではないかと考えています。

- ・ 2点目は地域別の特性と取組みについてです。やはり人口減少社会の中では、ある程度は投資の集中化が避けられないと思うのです。というのは、どこかの地域、どこかの都市にそれなりに選択的に投資して行って、そこを人口減少の際の防波堤にしていくという考え方が私はあると思っています。

ただ、富山の場合、富山市への一極集中が過度になっているのではないかとこの思いがあります。そういう中で、せっかく県から県西部地域という枠組みが示されたにもかかわらず、実は私の地元の方から異論が出てしまったというのは、私としては非常に忸怩たる思いです。正直に言って、過去の歴史や文化を踏まえたというのは分かりますが、やはりこれからの将来を見たときに、木を見て森を見ずみたいな話になるのではないかと考えています。

その意味では、極端な話、社会減少・社会移転が隣県に対して起こり得る可能性が県西部地域ではかなり高いと思っています。私自身も10年後にどうしようかなと考えている世界であり、金沢の街中のマンションの方が良いかな、などという変なことを考えています。多分、そうならないと思いますが、やはりそのぐらいの危機感を持って県西部地域というのは考えていかなければいけませんし、県としてもそういった思いを持って、例えば今の砺波・高岡の地域の上に県西部地域への統合戦略のようなものを上位概念として持っていただくような形に持っていけないかと考えています。そういう中で、富山市だけではなくて県西部地域の拠点都市である高岡に対しても、県

からある程度の都市空間整備への投資もぜひお願いしたいと思っています。

- ・ 最後に長期構想の話なのですが、私も実は北経連の総合対策委員会を仰せつかっておりまして、たまたま北経連は今年で 50 周年なので、50 年後の北陸地域の姿を掲げよう。多分、答えはたくさんあって、今から不連続の世界になるので、一つの答え、一つの姿で正解になるようなものではないと思うのですが、そのような宿題を頂いております。

そうしたときに、富山県、北陸地域もさることながら、今、北信越地域の全人口が 700 万人を少し超えるぐらいだと思います。これを一つの国として考えると、実はイスラエルよりも少し小さくて、ノルウェー、フィンランドより大きいという国のイメージが出てきます。そういったことから考えていったときに、その地域がある意味では非常に結び付きの強い地域でもあります。50 年後には今よりもさらに結び付きが強くなっていると思います。長野まではここから 40～45 分ぐらいで行けますし、新潟は少し遠いのですが、そういったイメージから考えていったときにどうなるのか。

それが国であるとするならば、やはり貿易収支はプラスになってほしいと思います。その貿易収支がプラスになるときにどのような要素があるのかと考えると、ものづくりとか、そういうことはこれから 50 年でテクノロジーが変わりますから分かりませんが、われわれとして強みは何があるかという、一つには比較的短期間で再生可能な炭素資源としての森林資源、日本海という造水装置としての水資源、そしてもう一つは有形・無形の地域文化です。この 3 つをしっかりと組み合わせる形で価値をつくっていければ、貿易収支が黒字になる地域ができるのかなと思っています。50 年とこの 20～30 年は違うかもしれませんが、そのようなことも少し考えているということです。

【遠藤部会長】

- ・ ありがとうございます。今、総まとめ的に発言していただきましたが、他の委員の皆さまから何かありませんでしょうか。
- ・ 今回私は、やはり人と触れ合うことの大事さを改めて感じました。最後に自分の反省点として一つ言えるとしたら、私は富山県民の一人として、あるいは大学に関わる一人として、各項目の主語が「誰」かを考えたとき、自分が何をできるかという視点でものを考えていきたい、考えなければいけないのだろうと思いました。
ということで知事にバトンタッチして、最後におまとめをお願いします。

【石井知事】

- ・ 今日はいつものにも増して非常に貴重なご意見をたくさん聞けたかと思います。お一人お一人へのコメントはなかなか難しいのですが、最初に永原さんから人口を自然動態だと 64 万人、80 万人にするという未来創生の計画について、われわれの今度の 10 年計画も一応、それは基盤にしているのですけれども、この考えには 2 つあります。
まず地域間流動、都市部との出入りについては、2020 年ぐらいに何とか均衡に持っていきたい。また、出生率は県民の皆さんの希望出生率が 1.9 ですから、確か 2030 年だったでしょうか、なるべくそのぐらいまでに持っていって、さらに 2040 年ごろに

は人口がこれ以上減らないという人口置換水準である 2.07 に持っていきたいという前提で試算しています。

出生率は一時期、1.34 まで下がりました。これがようやく、第 3 子の保育料無料化とか、いろいろなことをやってきて、あれをやった時点では全国で富山県がトップだったのですが、今は 1.50～1.51 まで戻ってきました。ただ、まだ希望出生率の 1.9 の壁は高いので、実はもっと子育て支援策をやらなければいけないと思って県民会議も改めてスタートしています。そこに今回、安倍内閣が思い切った子育て支援・少子化対策をやるとおっしゃっているので、その国の政策をしっかりと見極めた上で、さらにそれを補完する政策が適切に組めるかということで今議論して、県として準備しています。そういったことをこの 10 年計画にも、これは 2 月初めにまとまりますが、そこまでにうまく反映できれば、反映させたいと思います。

- また、自然災害への備えが大事だというのはそのとおりで、まさに立山砂防もそういう趣旨で、もちろん国の直轄事業でしっかりやっていただくように努力していますし、そのためにもぜひ世界文化遺産にしたいと思っています。幸い、ご承知のように日本の文化遺産 20 選の中の 3 番目に挙げていただき、1 番目の上野恩賜公園と文化施設群はル・コルビュジエの関係で既に西洋美術館が世界遺産になっていて、2 番目が丹下さんの代々木屋内総合競技場ですから、実質的には立山砂防が 1 番ということです。ですから、基盤ができたと思っております。
- それから Society 5.0 は、結局、第 4 次産業革命からの、元々はアメリカの GE がスタートして、それにドイツが速やかに反応して Industry 4.0 を始めました。これは製造業が中心ですが、最近、安倍内閣が Society 5.0 と言い出したのは、製造業だけではなくて他の産業にも IoT、技術を生かしていこうということで、私どもの富山県の IoT・AI 推進施策は農業等も対象にするという考えですから、そういう意味では Society 5.0 を私どもは先取りして進めているつもりです。
- 朝日専門委員がおっしゃった、IoT や AI を中小企業だけでなく中堅企業でもというお話ですが、税制は国の税制でやっているんで、そこを富山県がいじるというのは難しい面もありますが、確かものによっては大企業・中堅企業も対象になる部分があったと思いますし、県としては従来から国に働き掛けて、例えば地域活性化雇用創造プロジェクトなどは中小企業だけでなく、大企業の中でも中堅的なところは補助金の対象に既にしています。そうしたことは今後もいろいろな実情を見ながら、進めていきたいと思っています。
- それから、大学についてのいろいろなご要望があって、これは 2 人の学長からそれぞれ、私の受け止めとしては前向きなお返事を頂いたんで、私から重ねては申し上げませんが、特に県立大学はいわば身内ですから、石塚学長ともご相談して、私がいろいろ前向きなことを言うのを石塚学長が随分苦労しながら受け止めていらっしゃるという実情もあるのですけれども、もっと先へ行きたいと本当は思っているんで、頑張りましょう。
- 留学生については 80% が中国の方というお話がありましたが、ASEAN の留学生については県の独自制度で、企業と県が必要な経費を折半して留学生を招聘するというのを 3 年前から始めました。今、競争倍率がインドネシアやベトナム、インドとい

ったそれぞれの国で100倍以上だったでしょうか。ですから、あとは受け入れ企業が手を挙げていただければ、それから費用の半分は出していいとおっしゃっていただければ、もっと枠はいくらでも広く、いくらでもと言うと言い過ぎですが、県民の皆さんのご理解を得て増やしたいと思っています。朝日さんは独自にいろいろなことをなさっていますが、また大いに経済界の方にも手を挙げていただきたいと思います。

- ・ 池田専門委員がおっしゃった中で「考える道徳」という言葉があったと思うのですが、いろいろな課題を自分自身の問題として捉えるだけでなく、どのように行動していくかということをしっかり議論して解決していくことを目指すということかと思えますけれども、またよく勉強させていただきたいと思えます。
- ・ また、専門職大学のお話もありましたし、いろいろな面でのカウンセリングですね。人と人をつなぐ。自立しながらも支え合う。そういうときに全国レベルや世界水準のカウンセリングも必要かもしれませんが、地域ごとにフェース・トゥ・フェースでカウンセリングができるような、ピアサポーターという話もありましたけれども、そういうことも大事だと思います。これは従来もいろいろな分野で富山県はやっていますが、さらに進めていきたいと思えます。
- ・ 尾谷委員からは、女性の富山県への戻りについていろいろご提言いただきました。ぜひわれわれもそのようにしていきたいと思っております。インセンティブについてはいろいろなバランスがありますので、よく考えてみたいと思えます。
- ・ 岩田委員からは里山構想や富山湾、環境問題などについてご意見を頂きましたが、いつも婦人会の皆さまには環境問題や家庭教育など、いろいろな問題で先頭に立ってご尽力いただいております。そういった皆さんの志というか、パワーを生かして進めていきたいと思えます。
- ・ それから、石塚委員のお話に出たように、地域貢献するためにもグローバルなレベルが必要だということも、特にイノベーション、研究開発の面では協力し、また、地域貢献といっても政府が言っているグローバル型とローカル型、グローバル型までは必要ないけれども、ローカルの中で有益なそういう活動をするという分野はもちろんあると思えますので、その事柄の性質に応じて進めていかなければいけないと思えます。また、富山大学さんには、ひとつよろしくお願ひします。
- ・ その他、野に咲くレンゲソウというお話もありましたが、これはまさにそのとおりで、みんなが世界で一つだけの花だという気持ちで頑張る、「頑張る」という言葉を使い過ぎてはいけないのですが、努力していきたいと思えます。
- ・ あと、富山県は少し暗いという話がありました。私はそうでもないと思うのですが、ああいうご発言が出ると、それに多少影響されて提灯がつくという面もあるかもしれませんし、元々そういうイメージが少しあるのかなという気もします。お話に出たように、富山県が明治16年に誕生したころは災害も多くて苦労したようなのですけれども、全国でもむしろ貧しい県の一つだったと。しかし、今では社会資本整備も随分進んで、教育水準や医療の水準など、いろいろなデータを見ても、もちろん住宅環境も含めて全国でトップレベルと言っていい状況になっています。

これは案外、県民の皆さんは知らないのです。そう言っただけでは差し障りがありますが、近くのどこかの方がよほど所得水準が高いと勘違いされているのですが、実はそうで

はないので、そういうことも含めて県民の皆さんには、今でも立派な方はたくさんいらっしゃるのですけれども、またこれまで以上に良い意味での自信を持って、しかし同時に自信過剰にならないように、ましてや排他的だと思われぬようにしなければいけません。正直、分野によっては少し閉鎖的かなと感じるときがないわけではありません。これをしっかり乗り越えて、明るい未来を築いていくということかと思えます。

- ・ 「海のあるスイス」というのは何となくどうかと思ったのですが、意外と割合評価していただくケースが多いです。また、大手化粧品会社が富山県は美肌日本一と調査結果で言っていて、皆さんはご存じでしょうか、東京駅の丸の内側に行ったら、1日に何回もポーラ化粧品さんがわざわざ美肌日本一は富山県という広告を出してくれています。感謝状を出そうかなと思うぐらいですが、そういうことも生かしながら、もっと富山県のイメージが明るくなるようにしたいと思います。
- ・ あと、おっしゃるように北陸という視点も大事だと思いますし、それから北信越というお話もありました。石川、福井はもちろん、岐阜、長野、この間も新潟の知事がわざわざ私に会いに来られましたが、この北信越全体も含めて広域的な視点で、いろいろな政策をやっていくと。あるいは、この総合計画にもう少しそういう要素を出した方がいいのかなという気もするので、それはまた努力していきます。
- ・ 稲垣副部長からはなかなか四方八方に気を遣いながらのご発言がありましたが、県西部については、せつかく6市でまとまっていくという構想も一方では打ち出されながら、しかし、私は今回の一連の出来事を通して、やはり高岡・射水地区と砺波、小矢部の人たちの中にはある種の気質の違い、いろいろな経過がある中で、そういうものも大事にしながら、まさに県西部、あるいは富山県全体の発展をしっかり進めていきたいと思えます。
- ・ また、あまり平等主義が過ぎていけないのではないかというお話がありました。例えば富山県は小中高校生向けに「とやま科学オリンピック」を始めてもう10年ぐらいになりますが、あれはまさに悪平等ではない考え方です。池田委員にもいろいろご指導いただいているのですが、それからスポーツでも小学校5年生を対象に未来のアスリート発掘事業を10年ほど前に立ち上げ、ここから今、高校総体はもちろん、国体でも優勝したりする子がたくさん出てきていて、オリンピックの候補になるような子もいます。もちろん人格としては平等なのですが、それぞれの強みや個性がありますから、子どもたちが持っている可能性をしっかり若いころから見極めて、できるだけその可能性を伸ばしてあげることが大事ではないかと思えます。
- ・ あとは管理職のことについて前からお話しいただいているのですが、われわれが言っている管理職というのはいわゆるマネジメントが得意というだけではなくて、私のイメージでは例えば専門職でもすごく優れた業績を上げて、管理職と同じような待遇を受けているケースもこの管理職比率の中には入れているつもりです。その辺はおっしゃるように、これからは複線型人事制度だと思いますし、誤解のないようにしていきたいと思っています。
- ・ それから、富山市への一極集中というお話もありました。もしそのような印象を持たれているとすると非常に残念で、例えば中心市街地活性化法ができたとき、私は知

事に成りたてでしたが、随分汗をかいたつもりです。その結果として富山市が最初になったのですが、最初から高岡もぜひ入れてほしいということで実際に入りました。その後は少し市街地再開発には差があるものの、ここは同じように県が上乘せする、あるいは両方とも元々市と民間の事業だったのを手伝わさせていただきました。全国どこを見渡しても、県が上乘せを補助しているケースは非常に少ないのです。しかし、やはり市街地再開発をして、それぞれ発展してほしいと思って、国のお金だけではなくて県がさらに上乘せするという仕組みをつくりました。ただ、富山市の方はやはり民間の皆さんがより意欲的で次々出てくるのですが、高岡市は稲垣さんにまた頑張っていたいただきたいのですが、意外と出てこなかったのです。ただ、最近はやようやく出てきたので、今後も私は高岡、県西部、もちろん砺波、南砺も含めてもっと発展し、新しい未来を築いていただきたいと思っているので、これからもしっかりと支援していきます。

【遠藤部会長】

- ・ 知事、ありがとうございました。では、本日の第3回の会議を終わらせていただきますが、今日の内容については取りまとめ、最終的には富山県の総合計画の審議会に提出させていただきます。これは2月に行われるのですが、そこに至るまでの最終のプロセスとして、先ほど予算のことも出ましたし、また、指標等もいろいろ加えていかなければいけませんので、その点は修正、あるいは加筆が必要になってくるだろうと思います。今日の議論も踏まえた内容変更に関しては、私と稲垣副部会長ならびに3部会の各部会長、副部会長で相談して最終答申をまとめるということで、よろしゅうございますでしょうか。(委員から異議なしの声)

では、そのようにさせていただきたいと思います。本日はありがとうございました。